

歌う学校づくり、歌う地域づくりによる子育て支援活動～「親子と地域をつなぐ大合唱祭」の開催～

岡山大学大学院教育学研究科「子どもと音楽」研究チーム

活動の目的

社会の様々な変化により、子どもたちの心の拠り所となる「人々とのつながり」希薄になっている。歴史を遡れば、学校はもとより様々な機会に共に「歌うこと」で時を共有し絆を育み、その感動体験が大人になった時の生きる力に繋がっている事例が多く見られる。そこで、本活動は、学校や地域において、共に「歌うこと」で人々のつながりを意識できる「感動体験」の機会を提供することを目的とし、「親子と地域をつなぐ大合唱祭」の開催を目指した。学校で友達と声を合わせて歌うことは比較的多くあるが、その経験をさらに親子で、そして地域の人々と声を合わせて歌う活動に発展させること、そして、この経験が、「人々のつながり」を感じとることのできる感動体験となり、生きる力を育てることへつなげていければと考えた。

活動の内容及び経過

平成29年度は、岡山市内の公立小学校3校（岡山市立三軒小学校・岡山市立津島小学校・岡山市立御野小学校）に協力校としてお願いすることができた。各学校で、特に古くから歌い継がれている唱歌や愛唱歌を中心に「歌う活動」の推進を依頼した。また、夏休みには、協力校の4年生から6年生全員に、「小学校の思い出の歌」について、児童自身の回答と、保護者へのインタビューを含めたアンケート調査を実施した。そこでは、世代によって異なる小学校の思い出の歌の実際が明らかとなった。そして年度末の3月17日には、学区や地域を超えた大合唱祭「みんなで歌おう音楽会」を開催した。3部で構成し、オペラ歌手の歌う唱歌や日本のうたを鑑賞する第1部、学生ミュージカル《美女と野獣》メドレーの第2部、そして参加者全員で愛唱歌と心の歌を歌う第3部で実施し、参加者は約280名となった。

活動の成果・効果

前述のとおり、本活動は、学校や地域において、共に「歌うこと」で人々のつながりを意識できる「感動体験」の機会を提供することを目的とした。小学生の親子を中心に、幅広い学区や地域の方々が、世代を超えて歌声でつながることのできた事業となった。事後のアンケートからは、大切な日本の歌を子どもたちに伝えていくことが大切だという60代～70代の意見や、親子で歌う楽しさを感じ取れたという小学生の保護者の感想、また久しぶりに声を出すこと（歌うこと）がこんなにも楽しいものだということが分かったという小学生の保護者の方々の意見が多く見られた。様々な視点から、歌うこと、声でつながることの意義を見出すことのできた事業になったと考える。



今後の課題と問題点

上記の通り、様々な学区や地域の方々の参加があった一方で、参加した小学校区の偏りがあった点が否めない。大学近隣の小学校が中心となったため、今後岡山県全体の小学校区へ広げていくためにはどうしたらいいか課題が残る。また、事前のアンケート調査により第3部のみんなで歌う曲を選定したが、選曲範囲が広すぎたため、曲によっては、ある世代が歌えないといった問題点も浮かび上がった。

- 代表者：早川倫子 ●所在地：岡山市北区津島中
- TEL：086-251-7646 ●E-MAIL：rinko@okayama-u.ac.jp
- 設立年：2013年 ●メンバー数：8名